

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	生活が困窮している母子家庭の子供に弁当を届ける事業		
団体名	一般社団法人ビクトリーチャーチ		
所在地	沖縄県		
事業概要	<p>今後、ますます経済の停滞により、生活が困窮する母子家庭の数が増えていくことが予想されるため、コロナ禍により経済的に困窮して日々の食事すらまともに食べられない母子家庭に、お弁当を配布する事業の拡充を図る。職を失ったシングルマザーに弁当配達員として働いてもらい、少しでも収入の足しとしてもらう。</p> <p>現在、那覇市および近隣の市町村2拠点で毎日200個の弁当を配布している。現在の資金状況では、2020年11月で資金が枯渇してしまうため、2020年12月より、補助金を活用させていただき、那覇市社会福祉協議会の要請に応えるため弁当の配布可能個数を増やし、那覇市および近隣の市町村2拠点で合計毎日300個の弁当を配布する。</p>		
事業期間	2020年12月～2021年11月		
助成額	34,489,320円	内訳	直接事業費 32,989,320円 管理的経費 1,500,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困率の高い沖縄県の苦境は想像でき、緊急の必要性に迫られてこれまでも支援してきた実績は評価できる。 ・子ども本人、ひとり親本人の声を吸い上げて実施体制や支援内容に反映できれば更により活動となる。 ・1年後に弁当を配布し終わった段階で、子どもの権利の視点からどのように他の支援につなげるか、自立を促すかなど、検討の必要がある。 ・アンケート調査やソーシャルワーク的な活動を是非盛り込んでほしい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	せたがやこどもフードパントリー		
団体名	せたがや子どもフードパントリー実行委員会		
所在地	東京都		
事業概要	<p>給食だけでは日々の食が確保できない生活困窮世帯の子ども約300人を対象に、食材提供を行う。2020年12月には給食がない冬休み、さらには物入りの年末年始に、安心して過ごせるよう、年越し用の食材を提供する活動を実施。その後2021年1～11月は、現在も実施している米や野菜等の食材や日持ちする食品を提供する定期的な活動を、月2回、計4か所で継続し、子どもの食を保障する。同時に、食を通じたアウトリーチ支援として、保護者へのきめ細かなメール対応や活動時の安心した空間づくり等により、子どもや保護者との関係性を構築し、官民の支援サービスの情報提供等を通じ伴走支援を行い、子どもや家庭に必要な支援へとつなげる。</p>		
事業期間	2020年12月～2021年11月		
助成額	8,857,000円	内訳	直接事業費 7,922,000円 管理的経費 935,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動のなかでニーズを的確に把握しており、緊急的な食料配布にとどまらず、社会関係の構築につなげる視点と方法が確立されている。 ・火急性もあり、年末年始の食支援をほかの区に訴える点でも意義があると考える。 ・外国にルーツをもつ家庭へのリーチについて検討の余地あり。 ・ボランティアの比重が高いため継続維持について改善策を検討してほしい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	児童福祉施設で暮らす子供に向けた PC 寄贈&オンライン講習会プロジェクト		
団体名	特別非営利活動法人ライツオン・チルドレン		
所在地	東京都		
事業概要	児童福祉施設の高校生に向けたパソコン寄贈とオンライン講習会の取り組みを、従来の対面方式からビデオ会議（Zoom）による方式へと切り替えて実施する。本助成金を活用して、(1) パソコン寄贈台数と講習会開催頻度を増やし、(2) 講習会の内容もオンライン開催を踏まえて見直す。また、(3) これまでボランティアを中心としていた運営体制の一部を有償化し、事業の持続可能性や規模拡張可能性（スケーラビリティ）を高める。質・量の両面でニーズの高まりに応える。		
事業期間	2020年11月～2021年11月		
助成額	7,637,520円	内訳	直接事業費 6,939,084円 管理的経費 698,436円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的意義は大きく、事業の趣旨に賛同できる。 ・1都3県が対象であるならば、更に多くの子どもにリーチにできるのではないか。 ・IT講習の中にネットリテラシーの講習も含めることができればなおよい。 ・グッドプラクティスとして今後全国に広がっていくことを期待したい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
採択事業情報

事業名	コロナ禍で困窮する子どもの学習支援		
団体名	特別非営利活動法人キッズドア		
所在地	東京都		
事業概要	<p>1) キッズドア無料学習会 in 江戸川 対象：江戸川区在住の中学生、高校生（塾などに通うのが難しいご家庭） 内容：学習支援スタッフ（アルバイト及びボランティア）による学習指導、定期テスト対策、高校受験支援、大学受験支援等</p> <p>2) 外国にルーツのある子ども及び家庭への支援 in 足立 対象：外国にルーツを持ち困難な状況にある 6～18 歳およびその保護者 内容：日本語教師資格保持者による日本語指導、日本の学校での勉強（宿題、テスト対策等）のサポート、教育相談その他生活相談</p>		
事業期間	2020 年 10 月～2021 年 9 月		
助成額	13,000,000 円	内訳	直接事業費 11,791,300 円 管理的経費 1,208,700 円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・学びたいが学べない状況の子がいるということで緊急性が高い。 ・外国にルーツのある子ども及び家庭への支援を、子ども支援で実績のある団体が始めることは歓迎したい。 ・外国にルーツのある子ども及び家庭への支援では、語学以外の困難があるため、事業を実施しながら適切な相談対応の整備など臨機応変に対応していく必要がある。 ・区が行っている学習支援事業とのすみわけについてどのように検討しているのか確認したい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
採択事業情報

事業名	いのちまるごとプロジェクト事業		
団体名	特別非営利活動法人ハーモニーネット未来		
所在地	岡山県		
事業概要	<p>新型コロナウイルス感染の長期化に伴い、金銭・食、不安と先の見えない精神的な不安の両面に寄り添うことにより生まれる「安心感」の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生型こども食堂・しんぐるまざあずカフェ ・フードバンクを活用した、ドライブスルー形式の食料・日用品配布および宅配「こども宅食」 ・タブレット&wifi 貸与によるオンライン学習支援 ・相談窓口設置、精神的な安定による自立をめざす ・スタッフ研修（子ども・DV被害者支援） ・母子ための共同住宅（ステップハウス）整備 		
事業期間	2020年10月～2021年9月		
助成額	14,000,000円	内訳	直接事業費 11,468,600円 管理的経費 2,531,400円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・地方都市で経験を積んできた団体であり、包括的な支援を行う点は評価できる。 ・事業の多様さに応じた、組織基盤や実施体制も今後進めてほしい。 ・豪雨の被害も大きい地域であるため、必要な事業であると感じる。 ・助成事業が終了した後の事業の持続性についてはさらに検討してほしい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	コロナ禍における虐待防止と家族の分離予防		
団体名	特別非営利活動法人 SOS 子どもの村 JAPAN		
所在地	福岡県		
事業概要	<p>コロナ禍による子どもショートステイの利用増と新型コロナウイルス感染防止のための預かり場所の分離に対応するため、子どもの村福岡に第2軒目の「子どもショートステイ専用ハウス」を設置する。また、要支援家族により迅速で適切なサービスを提供し、利用後の地域支援につながることができるよう、ショートステイの受付と関係機関との連携調整を行う専任スタッフ（ファミリーソーシャルワーカー）を配置する。またサービスを利用した家族に対する子ども家庭支援センターによる支援の仕組みも確立する。</p>		
事業期間	2020年10月～2021年9月		
助成額	10,000,000円	内訳	直接事業費 8,704,000円 管理的経費 1,296,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・実績のある団体であり、自治体や専門家との協力体制も確立している点は評価できる。 ・本事業での実績をもとに、コロナ終息後のニーズの変化に適切に対応することを期待したい。 ・ショートステイ用ハウスの利用予定や利用後の子どもたちに、ハウス利用に伴いアンケートを行い、必要な物品や環境などについて聞くなど、子どもの意見を反映できる仕組みがあるとより良い。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	食と遊びによる子育てサポート事業		
団体名	認定 NPO 法人 CPAO		
所在地	大阪府		
事業概要	<p>○週 3～4 回、200 食の宅食・宅配を通し、各家庭の家事サポートを行う。そこでの子どもたちへの食や遊びの提供から各々の家庭内の問題に着手し、家事・育児サポートを行っていく。(ホットミールプロジェクト) (子育てサポーター事業)</p> <p>○隔週週末は親子を和歌山県橋本市の里山活動拠点に招待してお泊り会を行う。より関係性を深め、サポートへとつなげていく。(週末別荘計画)</p> <p>○他の週末は、食や遊びに関する各種イベント等に子どもたちを参加させ様々な機会提供を行う。(CPAO Kitchen (CPAO くらぶ))</p> <p>○仮称キッチン&パークの設置により、いつでも子どもたちを預かったり、相談を受けたり、食事提供ができる拠点を確保し、アウトリーチ活動の効果を高める。</p>		
事業期間	2020 年 10 月～2021 年 9 月		
助成額	11,030,000 円	内訳	直接事業費 8,900,000 円 管理的経費 2,130,000 円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪における子どもの貧困と居場所事業の実績がある団体であり評価できる。 ・支援実践とニーズの不一致に柔軟性をもって気づき、問題構造を把握しなおし、構想された計画。一歩進んだところをいく印象。 ・当事者の視点に立った計画となっている。 ・子どもにとって「遊び」は重要な要素であり、かつ他の団体にはない視点である。 ・社会福祉協議会との連携はあるが、行政とも連携できるとさらによい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
採択事業情報

事業名	コロナの影響を受けた障がい児の支援		
団体名	はまどおり大学		
所在地	福島県		
事業概要	<p>本事業では、コロナの影響下にある障がい児のサポートのため、以下の4つの取り組みを柱とする。</p> <p>具体的には、子どもへの直接支援と、子どもを取り巻く大人支援の事業である。子ども自身が自分の身を守れる手助けのための人権教育や、子どもに関わる大人に対する人権教育、そして困った状況にある親が助けを求めやすい環境を作る。環境整備のためには、支援するサポートメンバーの育成が必須である。</p> <p>①子どもたちへの「子どもの権利」教育の勉強と対話の会 ②大人への人権、障がい、虐待、教育などについての勉強と対話の会 ③精神障害などの、カウンセリングサポート（チームでの対応） ④サポートメンバーの人材育成</p>		
事業期間	2020年10月～2021年9月		
助成額	7,500,000円	内訳	直接事業費 6,564,000円 管理的経費 936,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で仕事がなくなり不安定になった親及び子どもへのカウンセリングは必要であると感じる。 ・障害児に焦点を当てている点は評価できる。 ・子どもの権利を子どもと親が学んでいく仕組みは素晴らしい。 ・東日本大震災、台風、コロナ禍と多くの災禍があるなか、また首都圏ほどリソースがないなかで、活動していることは評価でき、今後の活動にも期待したい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	子どもと家族のための無料 LINE 相談事業		
団体名	特定非営利活動法人ダイバーシティ工房		
所在地	千葉県		
事業概要	<p>発達障害、不登校、虐待経験、生活困窮家庭など、学校生活や家庭内で困難を抱えている子ども達は、信頼できる大人が周囲にいなかったり、いた場合もうまく頼れなかったり、自分で必要な情報を調べたりすることが困難な状況にあります。本事業では当法人で2020年8月より開設している子どもと家族向けLINE相談事業「むすびめ」から、「こども・若者」に特化した専門窓口を開設します。学習環境の課題、不登校や友人関係の悩み、家庭内での親とのトラブル、家庭の経済問題など、子ども達の生活のあらゆる困りごとについて内容や年齢に制限を設けない無料の総合相談を実施します。相談内容をこちらでアセスメント・整理することで適切な情報提供及び関係機関に迅速に繋げられる状態を実現し、状況に応じて電話相談や訪問支援も組み合わせることでより効果的な支援を行います。</p>		
事業期間	2020年12月～2021年11月		
助成額	9,000,000円	内訳	直接事業費 7,732,800円 管理的経費 1,267,200円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの相談窓口の選択肢が増えることは良い。LINEは子どもの相談ツールとして今後も必要であるので、その点を評価したい。 ・切実かつ早急に対応すべき課題の相談に対してどう対応するのか。相談対応の質の担保をどうするのか。このような相談は夜間病院的な相談であり、必ずしも専門医に診てもらえるわけではない。適切につなぐことができるかを考えると、全国展開ではなく、むしろ市川とその周辺地域に限定しモデルケースとすべきではないか。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	生活困窮世帯へのよりそいステーション整備		
団体名	一般社団法人 よりそいネットワークぎふ		
所在地	岐阜県		
事業概要	<p>よりそいネットワーク参画10団体で、岐阜圏域において、自治体や企業・民間等から提供される食材や生活用品などを収集・管理し、それらの生活支援物資を必要としている生活困窮世帯へと配布していくフードバンク事業を拡大した「よりそいステーション」の体制を構築していく。新型コロナウイルスの感染拡大により、生活困窮世帯からの緊急SOSが相次いでいる。それらの要望に対し、これまでは個別団体・個人が個別の対応を行ってきたが、今後の経済不況の持続や感染拡大第二派の到来を見据え、物資供給・配布・相談対応など、生活支援物資のシーズとニーズのマッチング体制を整備していく。</p>		
事業期間	2020年10月～2021年9月		
助成額	8,400,000円	内訳	直接事業費7,800,000円 管理的経費600,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援などもともと母体のあるネットワークなので安心感はある。 ・より効果的な支援のためにネットワークの体制整備を進める計画で、総合的にみて成果が期待できる。 ・コロナ禍で食支援、フードバンクの役割は大きい。ネットワークにフードバンクの団体が入っている点で期待したい。 ・ネットワークを作って協力体制をしっかりと作っている点を評価したい。一方ネットワークであるため、事業実施に伴う実施体制、責任の所在は明確にすべき。 ・岐阜は中国・フィリピン・ブラジルなど移住労働者が多くコロナ禍での困窮状況は厳しい。移住者支援団体がある地域なので、連携し、チラシを多言語化するなどして然るべき支援先につなぐ活動も盛り込んでほしい。 ・ネットワーク構成団体には子どもの権利の視点について強化してほしい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	親子を支援につなぐカフェの常設運営事業		
団体名	特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド		
所在地	山形県		
事業概要	<p>pont tree café を常設運営し、日常的に食事やカフェメニューを提供しながら、子育てや子育て支援の情報誌を手渡す。ひとり親家庭、東日本大震災後の避難家庭など課題を抱える親子に食事を提供する(子ども食堂)他、対象ごとに定期的なイベントや行事をホームページや情報誌で広報し、開催する。これら親子の状況を把握し、必要に応じてほかの活動につなぐ(ボランティアの家庭訪問支援、子どもの一時預かり、母親の再就職支援、子どもの遊びや活動の支援など当団体の活動につなぐ)。他機関との連携により社会資源につなぐ。地域住民との交流イベントを開催し、親子を地域につなぐ。これらにより、親子の孤立を防ぎ児童虐待を予防する。</p>		
事業期間	2020年11月～2021年10月		
助成額	4,000,000円	内訳	直接事業費 3,400,000円 管理的経費 600,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェを常設運営によってターゲットとする人が集まるのか、より詳細な検討が必要である。 ・育児サークルにつながらない人の方が虐待リスクが高い。そういう人たちが来やすいようにする工夫を期待したい。人が来るしくみ、人が集まった時に脆弱性の高い子どもたちをどう救っていくのかを明らかにしてほしい。 ・ひとり親が来やすい夜間など、時間帯は変えて実施を検討してほしい。 ・コロナが再び拡大した場合の次善策も準備してほしい。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	社会的養護施設の人材確保支援		
団体名	特定非営利活動法人 チャイボラ		
所在地	東京都		
事業概要	<p>コロナにより、離職・退職が相次ぎ、採用活動も大幅に鈍化している社会的養護施設の「新規職員の採用」をサポートすることで、入所児童への十分な支援体制を作る。</p> <p>既に運営中のチャボナビ、見学会の企画運営、出張授業、社会的養護に関する情報の発信、相談窓口の各施策を加速させるため、新たな広報戦略を実行し求職者や施設に必要な情報が届けられるようにする。</p> <p>また上述の活動を加速させるため、現在のボランティア・プロボノスタッフが事業運営に集中できるよう、弁護士・社労士・税理士等の専門家から支援を調達し、本団体そのものの実行力・ガバナンス強化も行う。</p>		
事業期間	2020年10月～2021年9月		
助成額	6,000,000円	内訳	直接事業費 6,000,000円 管理的経費 0円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護施設の課題に気づいて活動している点は評価したい。 ・事業内容は今まで児童養護施設で取り組んでこなかった広報手法であり、やってみる価値はある。 ・重要な課題であるにも関わらず、社会的な政策課題として捉える視点が見えない。事業で実施したことを社会に反映する調査報告、政策提言が計画に反映されるとよい。 ・一気に全国展開するには団体の基盤が弱いように見える。実施するならば、基盤が確立している首都圏でしっかりやるべきではないか。 ・施設職員が退職する状況は東京と地方では違うので、その分析は必要。 ・事業を通じて子どもの権利の視点についての強化が望まれる。 ・施設を紹介する際に一定の基準が必要。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	コロナ禍で困難が増した不登校の子ども支援		
団体名	特定非営利活動法人 フリースクール全国ネットワーク		
所在地	東京都		
事業概要	<p>経済的に困難な状況にある不登校や高校中退の子どもの相談事業を無料で、全国 60 箇所程度で行う。相談目標件数は 200 件あまりを想定。その中で教育支援が必要な子ども 40 人を対象に期間中、無償で、フリースクールもしくは通信制高校で教育を受ける機会を提供する。相談事業および無償の教育支援の実施は、当ネットワークの加盟団体で実施する。実施団体間で情報共有を行うことにより支援内容の充実を図りながら進める。また、相談事業および教育支援の実施を通し、経済的困窮かつ社会的孤立化傾向にある子ども支援についての分析を行い、当ネットワーク加盟団体と共有することにより、次年度以降の支援および政策提言の参考とする。</p>		
事業期間	2020 年 11 月～2021 年 10 月		
助成額	18,745,000 円	内訳	直接事業費 16,688,000 円 管理的経費 2,057,000 円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施後（1 年後）以降に目標とする状態として、自らの支援スキルの向上が挙げられている。今はない状態を自覚した上で本事業を通じて得ていこうとする姿勢は評価できる。経済的に困難な状況にある層のニーズにしっかりつながっていくことを期待したい。 ・全国ネットならではの活動を評価したい。事業を通して実態把握を行い、政策提言につなげることを期待する。 ・高校中退の子にフォーカスを置いてほしい。 ・保護者ではなく子どもに直接リーチできる相談会を実施してほしい。 ・実施するにはソーシャルワーク的な技術が必要だが、その点をさらに検討してほしい。 ・目標数字の根拠が不明瞭。例えば 40 人を決める根拠はどのように設定しているのか。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	With Kodomo で子どもの心とからだを守る事業		
団体名	特定非営利活動法人キャップセンター・ジャパン (CAP センター・JAPAN)		
所在地	大阪府		
事業概要	<p>①障がい児入所施設、および社会的養護のもとで暮らす子どもたち、さらに職員に対して子どもへの暴力防止プログラム (CAP プログラム) を提供し、子どもたちが社会的に暴力に対する脆弱さを持たされている環境を転換していく契機をつくる。提供は、CAP センター・JAPAN に登録する地域の CAP グループが事前に CAP センター・JAPAN と情報共有等をしたうえで実施。</p> <p>②「コロナ禍と子どもたち」をテーマとして市民を対象とするオンラインでの地域セミナーの実施によってコロナ禍が子どもに及ぼす影響などの情報を共有。さらに今回の取り組みを報告書にまとめることによって、施設入所している子どもを含む子ども全体への社会の意識の変革を促し、コロナ禍においての子どもを守るソーシャルなネットワークを強化する。</p>		
事業期間	2020年12月～2021年11月		
助成額	6,740,700円	内訳	直接事業費 5,848,700円 管理的経費 892,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・受容が難しい子どもに対応するにあたり CAP プログラムは有効と考え、評価したい。 ・施設職員にターゲットを絞る活動に加え広く社会の意識変革をもたらそうとする活動が組み込まれており、独自性がある。 ・コロナ感染拡大の中でのワークショップ実施は、感染予防の徹底が必要。 ・報告書作成予定だが、紙ベースの報告書作成に加え、オンラインなどを活用しより効果的な情報発信を期待する。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	Mano a Mano(マノ・ア・マノ) 一手と手を取り合おう		
団体名	特定非営利活動法人日本ペルー共生協会(AJAPE)神奈川		
所在地	神奈川県		
事業概要	<p>本事業は、外国人児童生徒及び若者に対する一方的な支援に限定されず、同胞間の学習、文化やアイデンティティ認識等に対する相互扶助関係を構築し、ネットワークの再構築・強化を図るものとする。具体的には、学力低下を防ぐためのきめ細やかな学習指導(小中高レベル)、進路相談(中高レベル)、若者の意見交換会(ルーツ、進路、将来等)を保護者にも理解できる言語を使用し理解を得ながら定期的実施する。</p>		
事業期間	2020年11月～2021年10月		
助成額	7,000,000円	内訳	直接事業費 7,000,000円 管理的経費 0円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・大和市は外国籍住民が多く困窮が進んでいることから支援の必要性はある。 ・コロナ禍を受けて弱体化した移民コミュニティをつなぎ直し、エンパワーする意図を有する計画で、着眼点はよい。 ・子どもの権利の視点を計画の中でより意識してほしい。 ・事業概要やアウトプットから活動の詳細がよく見えない。 ・これまでの活動をコロナ緊急対応の中で発展させようとしているかについて、さらに計画書に書き込んでほしい。 ・多様な方向への発展可能性があるので、今後を期待したい。 ・学習指導、進路指導、意見交換会では、コミュニティのロールモデルとなる若者を巻き込んだイベントができるとよいのではないか。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	ミュージズの夢・サポート通信教育「kotori」		
団体名	認定特定非営利活動法人ミュージズの夢		
所在地	宮城県		
事業概要	<p>感染拡大により芸術および学習活動が継続困難となった、障がいを抱える子どもたちと医療施設に長期入院中の子どもたちを対象とした通信芸術プログラムの充実と配給。約 20 年に渡る教育実績と本年 4 月より当法人内で試行してきた通信芸術教育プログラム、及び現在「仙台市民文化事業団」助成により実施中の宮城県内の病院・特別支援学校利用者を対象者とした通信芸術プロジェクト、で培った経験とヒアリング・調査研究結果を元に、対象者のニーズ・生活環境・成長過程により沿ったプログラムを、1)学習教材配給、2)オンライン配信、3)郵送による参加型アートプロジェクトの3つを、を活動主幹として提供。音楽やアート創造を通して、子どもたちの日常に安らぎを届け「心の成長」と「心のケア」につなげる。</p>		
事業期間	2020 年 11 月～2021 年 10 月		
助成額	5,300,000 円	内訳	直接事業費 4,937,000 円 管理的経費 363,000 円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の助成が多い中、芸術への支援も非常に大切であり、さらに障害のある子どもを対象としている点を評価したい。 ・病気や障害のある子どもに接するにあたって、子どもの権利の視点をさらに強化してほしい。 ・当事者である子どもたちが参加できるプログラムになっていると思うが、当事者参加を重視してほしい。 ・本助成事業を通じてコンテンツをオープンソース化し社会の共有財産にしていこうとする姿勢は、団体の理念を具現化する発想で好感がもてる。 		

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
 社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業
 採択事業情報

事業名	共創の音楽で大槌の子ども達に生きる力を		
団体名	一般社団法人エル・システムジャパン		
所在地	東京都		
事業概要	<p>音楽によって地域復興のために地元で活動する槌音と、震災直後から子ども支援として音楽教育事業を展開しているエル・システムジャパンとの連携で、地元の障害児向けデイサービス事業に通う不登校や障害のある子どもに対して楽器演奏や様々な分野の音楽鑑賞の機会をつくる。そのことで、子ども自身が自己表現をし、仲間と音楽でつながることができる環境を整える。また、エル・システムジャパンが運営する弦楽器教室の子どもたちとの交流により、さらにつながりと交流の輪を広げられることを目指す。</p>		
事業期間	2020年12月～2021年11月		
助成額	7,000,000円	内訳	直接事業費 6,000,000円 管理的経費 1,000,000円
選定ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値10人で「1人1曲弾けることを目指す」となっているが、もっと多くの子が音楽を楽しめる目標に修正すべきでは。 ・多くの子が音楽に触れられ、楽しめるような目標値、事業を期待したい。 ・コロナ感染拡大防止の観点から、東京から指導者が行くのではなく、オンラインや岩手県内の指導者を見つけるなど工夫が必要ではないか。 		